総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

心身の健全な発達を図り、自主性・実践力に富む社会の有為な形成者としての人格の形成を目指し、農業経営者・関連産業技術者を育成する。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

- (1) (知識・技能) 各教科で学んだ内容や教科の特質に応じた見方・考え方をはたらかせ、課題や現象を多面的に捉える力を身に付ける。
- (2) (思考力・判断力・表現力) 探究活動の過程や日常生活での経験をふまえて、仮説を立てたり、検証方法を考えたり、結果を科学的に考察したりする力を身に付ける。
- (3) (学びに向かう力、人間性等) 生徒が発見した課題について、自分事として捉え、課題の解決を通してより良い社会を作ろうとする意識や態度を身に付ける。

総合的な探究の時間の学習評価

- ・自ら進んで行動し、協調性をもって他者と協力して活動することができる。
- ・プレゼンテーションやポスター発表、論文・報告書、レポート、ノート、作品などの制作物、それらを計画的に集積したポートフォリオ

生徒の実態

- ・学習意欲、理解力に大きな開きがある。
- ・進路選択が多種多様である。
- ・中学校時に不登校等であった。
- ・特別な支援を必要とする生徒が在籍している。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

- ・自己肯定感を高める指導
「注目する」「共感する」「認める」「褒める」
- ・自己決定を支援する指導
学校のこと、生活のことを自分で管理できる。
自分の職業や将来の生活を自分で決めることができる。

目指す生徒の姿

- ・基本的生活習慣が確立された生徒
- ・協働して課題解決に臨む生徒

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

1 学年

人との接し方

- (1) 道徳・公共及び農業での実習で学んだ知識及び技能が相互に関連付けられ、課題を多面的に捉える力を身に付ける。
- (2) 他者の考えを理解し、自分の考えを他者に伝えられる力を身に付ける。
- (3) 自己の行動について振り返り、基本的生活習慣や他者に対する思いやりなどの課題を意識し、改善しようとする態度を身に付ける。

地域の人をもてなす

- (1) 学校祭を多面的な視点から向上させようとする態度を身に付ける。
- (2) 学校祭の結果について科学的に考察する力を身に付ける。
- (3) 学校祭について振り返り、自己の行動を改善しようとする態度を身に付ける。

自己の在り方を考える 基本的生活習慣の確立

- (1) 社会人としての視点から自己の課題を捉える力を身に付ける。
- (2) 職業体験の経験をふまえて、自己を分析する力を身に付ける。
- (3) 自己の特性を理解し、社会に貢献しようとする姿勢を身に付ける。

学習活動、指導方法等

学習活動

- ・1年生は他者との関りを通して、自分について考えるとともにマナーや基本的生活習慣を身に付けることを探究課題として設定する。

指導方法

- ・アクティブラーニングの視点で、基本的生活習慣および技能を定着させる。
- ・本校が育てようとする資質・能力が身に付いているか、担当者間での共有を行う。
- ・本校の環境を大いに活用し、各教科・科目を横断的に取り入れる。
- ・教員と生徒の協働的な活動を行い、相互理解を深めるとともに、探究活動を行うために必要な手法を身に付けさせる。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

- ・授業担当者会議（毎月1回）・・・授業担当者間で指導方法や評価観点、進捗状況について適宜指導を共有する。
- ・就業体験（インターンシップ）との連携・・・地域企業、保育園・幼稚園・特別支援学校との交流活動を通じて、個々の変化を共有する。
- ・総合的な探究の時間の研修会・・・新規採用者、転入者対象の研修を実施し、本校の目標や育てようとする資質・能力について研修する。